

「下野新聞社・矢板支局」って知っていますか？

はのきざわ
矢板支局長 柊木澤 良太

「矢板のいいところをたくさんの人に知ってもらいたいーだけど、どうすればいいの？新聞を活用してもっと矢板をPRすることはできないかな？」ということで、今回は、意外と知っているようで知らない新聞について、下野新聞社・矢板支局長にお話を伺いました。

●下野新聞社の特徴は？

今年六月で、百四十周年を迎える新聞社です。企業理念を表現した「郷土とともに明日をひらく」をスローガンとし、地域と共に歩んでいます。今年は節目の年であることから、記念スローガンとして「100%とちぎ愛」を掲げロゴマークを制定しました。



弊社ホームページによると、下野新聞の発行部数は約三十一万部。新聞の発行部数は、全国的に年々減ってきています。

●矢板支局について教えてください。

昭和二十〜三十年代に市内にあった通信部が昇格し、昭和三十六年、矢板支局が誕生しました。現在の支局は、矢板駅西口駅前にあります。

地域の話題をいち早く新聞に載せるために、各地域には取材拠点があります。矢板支局もその一つで、隣の大田原総局と協力して取材を行うこともあります。

●なぜ新聞社を仕事に選んだのですか？

高校二年生の時、野球の大会で取材を受けた翌日に新聞に載ったことがあり、その時の反響のすごさに「新聞の力ってすごいな」と思い、記者を目指しました。

●取材していてうれしいことはありますか？

取材させていただいた相手から「ありがとう」と言われたときです。問題提起して世の中が変わったときもうれしいですね。

●記者になって大変なところや気を付けていることはありますか？

大変なことというより心苦しく思うのは、せっかく寄せてもらった情報や記事が載らなかったことです。

記者として大切にしていくことは、情報を客観的に見ること、いろんな内容を読者に提供すること、事実を正しく伝えることです。学生の頃は国語が嫌いで、書くことも得意ではありませんでしたが、記事を書くときは



要点をまとめて、はじめに重要なことを書くようにしています。

また、良い記事を書くために、相手にわかりやすい質問の仕方や、相手が話しやすくなるような「聞き上手」であるように気を付けています。

●取材の優先順位はどう決めていますか？

地域の取り組みやイベントを優先しますし、それ以外の場合は、個人的な嗜好は入れず、先に約束した人を優先しています。

没になってしまふ記事もありますが、上司やデスクと連携してできるだけ没にならないようにしています。

●矢板についての印象は？

事件や事故が少ないですね。皆さん、人が温かく気さくな感じで、取材していてもNGなしでいろいろ答えてくれます。プライベートでも、スパーなどよく声を掛けてくれますよ。

柊木澤支局長プロフィール



柊木澤 良太（31歳）
昭和61年8月生まれ、埼玉県久喜市出身。妻と子どもとの3人暮らし。趣味は野球とゴルフ。
2012年に入社し、下野支局勤務を経て、本社社会部「事件・事故・裁判」担当、昨年から矢板支局長として勤務。

矢板支局に情報をお寄せください！

住所：矢板市扇町1-13-7
シムシティ21 102号

電話：40-1023
FAX：40-1024
携帯：080-7769-2355
メール：hanokizawa@shimotsuke.co.jp



●支局長としての抱負はありますか？
地域の方と一緒に、同じ目線で記事にしたいと考えています。新聞の発行部数は減っていますが、AI・ロボットにはできない人の気持ちを酌んで文にすることや、パソコンやスマートフォンで検索しなくても目に入ってくる情報と
また、スクープを取っていきたく思っています。例えば、初めて確認された花や他の人が知らないことなどをキャッチしていきたくです。
皆さんからの情報提供をお待ちしています。
(T・O)